

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02026

研究課題名（和文）カリブ海旧イギリス領諸国における植民地時代の事物の現存と歴史的記憶

研究課題名（英文）The Existence of Colonial Heritages and the historical memory in the Modern British West Indies

研究代表者

川分 圭子（KAWAWAKE, Keiko）

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：20259419

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：イギリス領カリブ諸島の複数の島で砂糖プランテーション跡地を視察し、また現地の人々への聞き取りや博物館訪問から、奴隷制や砂糖プランテーションでの労働がどのように記憶されているか、またこれらの跡地の今後の保存についての意識を調査した。その結果、砂糖生産中心の経済体制は多くの島で20世紀後半まで続いており、それは過去というより現代克服すべき課題であった、砂糖プランテーションの多くも史跡というより産業施設の廃墟として単に残っているものが多いことが分かった。その一方で、砂糖プランテーション跡地の史跡化は、国民的記憶形成の手段として、観光振興の手段として重要であることも、強く認識されていることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西洋近世の「アメリカ発見」が世界にもたらした最大の影響は、大規模な商品作物栽培体制の確立と拡大である。砂糖、コーヒー、綿花、小麦などが一地域で大量に生産され、世界的に流通する体制は「発見」後のアメリカで形成され、その後アジアに広がった。ただ、一つの商品作物栽培に特化した地域は、必ず他地域に凌駕され、衰退していくが、衰退後については関心が払われてない。本研究では、17世紀後半から砂糖栽培に特化し18世紀には世界市場を制覇していたカリブ諸島の砂糖生産が、19世紀後半から衰退に向かうにもかかわらず、現在まで深刻な影響を及ぼしていることを、砂糖プランテーションの廃墟が多数残る現況から明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We visited the sugar plantation remains in St. Kitts & Nevis, Montserrat, Antigua & Barbuda, Trinidad & Tobago and Jamaica and had hearings from local people and museum about what image they had of the colonial past and how they want to keep the remains. We found that sugar economy continued until the end of 20th century in most islands and its memory was still vivid and most of the sugar plantation remains were industrial ruins rather than historical sites. Recently the sugar plantation remains are getting appreciated as the heritage, important both for making national memory and for tourism. Tourism is still oriented to attract British and American white people and it is a important but difficult project to communicate historically correct information to them through heritage tour in the islands.

研究分野：イギリス近代史

キーワード：西洋史 イギリス近代史 イギリス現代史 経済史 砂糖貿易 カリブ諸島 西インド

様式 F - 19 - 2

1. 研究開始当初の背景

2014-16 年度基盤 (C) 代表者川分圭子「イギリスの奴隷制廃止と奴隷所有者への賠償問題」の研究の最終段階で、現在も旧英領西インドに奴隷所有者 (砂糖プランター) の姓を冠した地名が多数残り、またそこには旧砂糖プランテーションの跡地もかなり残っていることに着目して、コロナル・ヘリテージ全般をテーマとして言語学と文学の研究者も誘って、『英語文化圏としてのカリブ諸島 グローバル化の中のコロナル・ヘリテージ』と題した報告会・報告集をまとめた。このテーマをより追究するために取得したのが、本科研であった。そこで本科研では、英領カリブ諸島の多くの島の砂糖プランテーション跡地を訪問し現在の保存状況を知ることと、現地の人々への聞き取りや博物館訪問から、奴隷制や砂糖プランテーションでの労働がどのように記憶されているか、またこれらの跡地の今後の保存がどう考えられているかを調査することを、中心課題とした。研究分担者としては、前回科研の最後で協力者となった言語学・文学の研究者のほか、イギリス帝国史研究者を加え、言語や現代文化・博物館展示・教科書などにおけるコロナル・ヘリテージの現れ方について調査を依頼した。

2. 研究の目的

当初の研究目的は、砂糖プランテーション跡地調査を通して、奴隷制・植民地時代の事物がどれほど現存しているか、現存している事物に対してどのような記憶が持たれているか、歴史的記憶維持のためにこれらの事物が活用されようとしているか、活用されるとしたらどのような形がとられているか、などを調査することであり、またその調査結果を、言語学・文学・帝国史研究者それぞれのコロナル・ヘリテージ調査と比較対照して、現代の英領西インドにおけるコロナル・ヘリテージのあり方について考えることであった。本科研は、主に以上の目的に沿って進められたが、ただ研究が進展するにつれて、研究代表者の関心は、現在残っている事物の調査よりも、なぜ現在までこれほどたくさんの砂糖プランテーションが残っているのかへ、移行した。そこで、最終年は、奴隷制廃止以降現代までの英領西インドの砂糖生産・貿易史の調査に着手することになり、次の科研のテーマにするとともに、本科研の最終的な報告書ではその第 1 段階の調査結果をまとめた。

3. 研究の方法

本科研の研究会、他研究者との研究会やシンポジウム、在外研究を行い、その成果を、日本西洋史学会小シンポジウム、口頭の研究報告、紙面による研究報告で行い、最終的に全 137 頁の科研報告書をまとめた。

訪問調査した英領カリブ諸島の史跡・プランテーション跡地・自然保護区

アンティグア Antigua

- ・ Betty 's Hope
- ・ Gunthorpe 's Sugar Factory
- ・ Nelson 's Dockyard

Antigua Naval Dockyard and Related Archaeological Sites

バーブーダ Barbuda

- ・ Barbuda Frigate Birds Sanctuary
- ・ Codrington House

ジャマイカ Jamaica

- ・ Mona, Papine, Hope Plantations
- ・ Good Hope Estate
- ・ Greenwood Great House
- ・ Clifton Mount Estate

Blue and John Crow Mountains National Park

モントセラート Montserrat

- ・ St. Patrick Festival
- ・ 旧首府 Plymouth を含む火山噴火の被災地域
- ・ 火山観測所

ネヴィス Nevis

- ・ Dumbar Mill
- ・ Four Seasons
- ・ Nevisian Heritage Village at Fothergill 's Estate
- ・ New River Estate Last Operated Plantation
- ・ Nisbitt Plantation Inn
- ・ Hamilton Estate
- ・ Hamilton House
- ・ Montpelier Plantation Inn
- ・ Hermitage Plantation Inn
- ・ Golden Rock Plantation Inn
- ・ Eden Brown Estate
- ・ Old Manor Estate Hotel

- ・ St. Thomas ' s Lowland Church
- ・ Nevis Peak Rainforest Tour

セント・キッツ St. Kitts

- ・ Brimstone Hill
- ・ Brimstone Hill Fortress National Park
- ・ Mill House Guesthouse & Convention Centre
- ・ Brotherson ' s Estate
- ・ Wingfield Estate
- ・ Belmont Estate
- ・ Central Sugar Factory in Basseterre

トリニダード Trinidad

- ・ Magnificent Seven
- ・ Caroni Bird Sanctuary
- ・ Caroni Sugar Factory

トバゴ Tobago

- ・ Mt. Irvine Bay Resort
- ・ Magdalena Grand Beach & Golf Resort, Tobago
- ・ Fort James
- ・ Fort King George
- ・ Speyside Estate

4 . 研究成果

講演会、シンポジウム

「カリブ地域研究への誘い ジョン・ウェルズ氏（ロンドン大学名誉教授）カリブ英語とその起源」2017年10月28日、キャンパス・プラザ京都（主催・司会）

小シンポジウム「旧イギリス領西インド諸島における歴史的物事の現存状況とプランテーション時代の記憶」第69回日本西洋史学会大会、2019年5月19日、静岡大学(主催・報告)

共編著

川分圭子・玉木俊明編著『商業と異文化の接触 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』吉田書店、2017年7月。うち「第13章 19世紀自由貿易期における英領西インド砂糖生産と本国貿易商」を執筆。

共著

島田竜登編『歴史の転換期7 1683年 近世世界の変容』山川出版社、2018年12月。うち、「5章 近世西欧諸国のアメリカ植民地体制における法と経済」(218-270頁)を執筆。

報告書

研究代表者 川分圭子『科学研究費研究成果報告書』2020年3月。全137頁。編集と「はしがき」「2017-19年活動報告」(1-2頁)「長期的不況の中の存続 奴隷制廃止以降現代までのイギリス領カリブ諸島の砂糖生産」(3-57頁)「付録1 訪問先リスト」(101-105頁)などを執筆。

川分圭子「ジャマイカの砂糖プランテーション跡地」京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報 第6号（発行：京都府立大学文学部歴史学科）2020年3月。

口頭発表

川分圭子「ジャマイカの砂糖プランテーション跡地」フィールド調査報告会、2020年2月13日、京都府立大学

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川分圭子	4. 巻 53(4)
2. 論文標題 書評 笠井俊和著『船乗りがつなぐ大西洋世界：英領植民地ボストンの船員と貿易の社会史』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川分圭子
2. 発表標題 自由貿易時代の英領西インドの砂糖生産
3. 学会等名 奴隷制研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川分圭子
2. 発表標題 自作について
3. 学会等名 社会経済史学会近畿部会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 島田 竜登	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 292
3. 書名 1683年 近世世界の変容	

1. 著者名 川分圭子・玉木俊明ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 897
3. 書名 『商業と異文化の接触』	

1. 著者名 島田竜登・川分圭子・伏見岳志・三木聡・守川知子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 未定
3. 書名 歴史の転換期シリーズ第7巻 『1683年近世世界の変容』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 美知代 (YAMAGUCHI MICHIO) (50259420)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	
研究分担者	井野瀬 久美恵 (INOSE KUMIE) (70203271)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	竹下 幸男 (TAKESHITA YUKIO) (10382011)	畿央大学・教育学部・准教授 (34605)	